

東海大学九州教育活性化プロジェクト

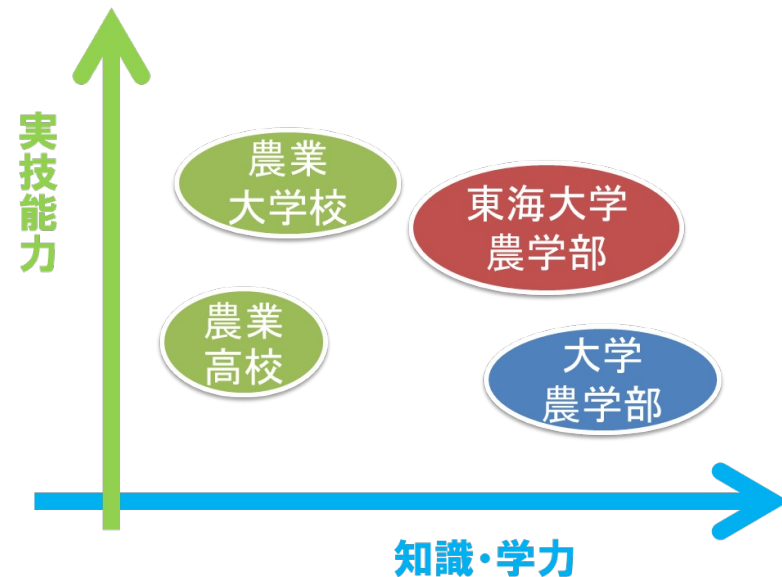
「アグリ実学スキルアップ支援プログラム」

略称: アグラップ

Agriculture + **up**↑

農学部

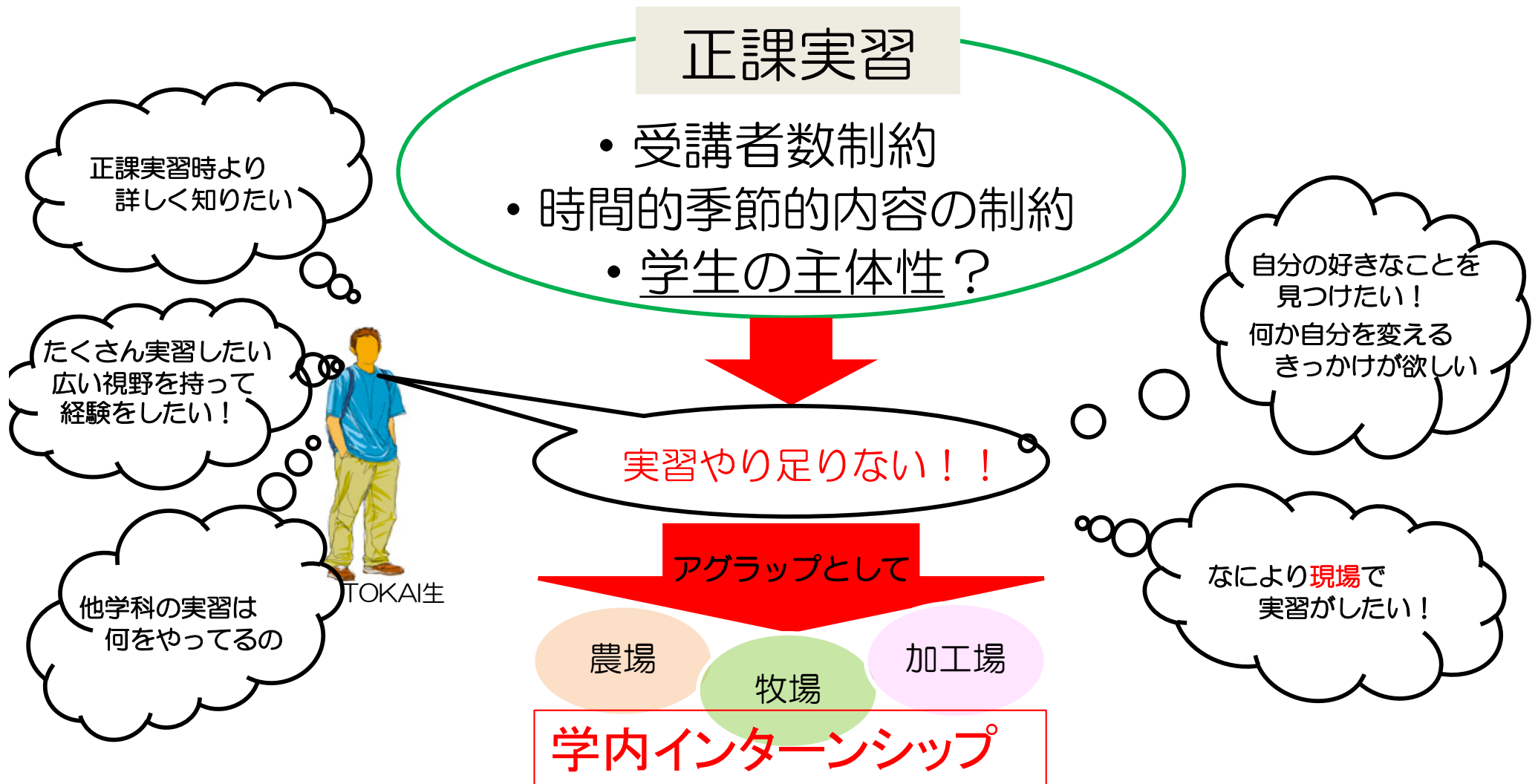
東海大学農学部卒業生の長所



- 知識があるだけではなく、
ひと通りのことができる
- 農学部卒業生は即戦力
⇒ 現場に強い

- ✓ 実学尊重
- ✓ 実習施設との一体型キャンパス
- ✓ 技術職員の高い技能と教育能力
- ✓ 3年次生からの研究室配属

正課実習からアグラップ（スキルアップ）へ

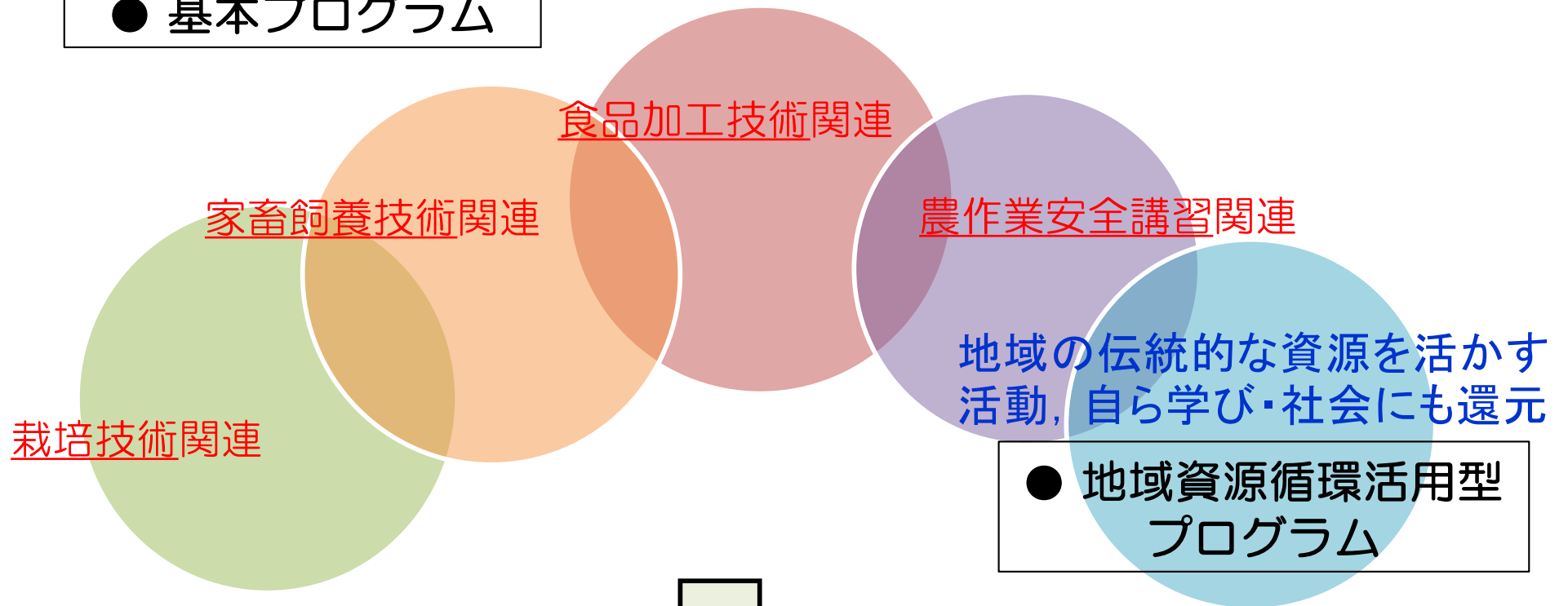


農学教育実習センターの技術者が実働する実践場に入り実習を行う
実学スキルの向上を支援する実践的かつ主体的学習機会の提供

実習プログラム

自らの技術・知識の向上

● 基本プログラム



農学の学びを発展させ社会に貢献

実践応用型プログラム

➤ 基本プログラム (38回実施, 137人)

- ・ 栽培技術関連プログラム (5回 : 15人)
- ・ 家畜飼養技術関連プログラム (20回 : 54人)
- ・ 農作業安全講習関連プログラム (7回 : 58人)
- ・ 食品加工技術関連プログラム (6回 : 10人)



水田管理(除草, 収穫)



搾乳



妊娠鑑定



ベーコン水洗い



トラクタ
(耕うん)



ドローン
講習

➤ 地域資源循環活用型プログラム (1回実施, 6人)

「阿蘇のあか牛・草原牛プロジェクト」



小国牧野の
植生調査



➤ 実践応用型プログラム (3回実施, 10人)

- ・生涯学習講座助手 (2回 : 8人)
- ・かもめ幼稚園体験学習 (1回 : 2人)



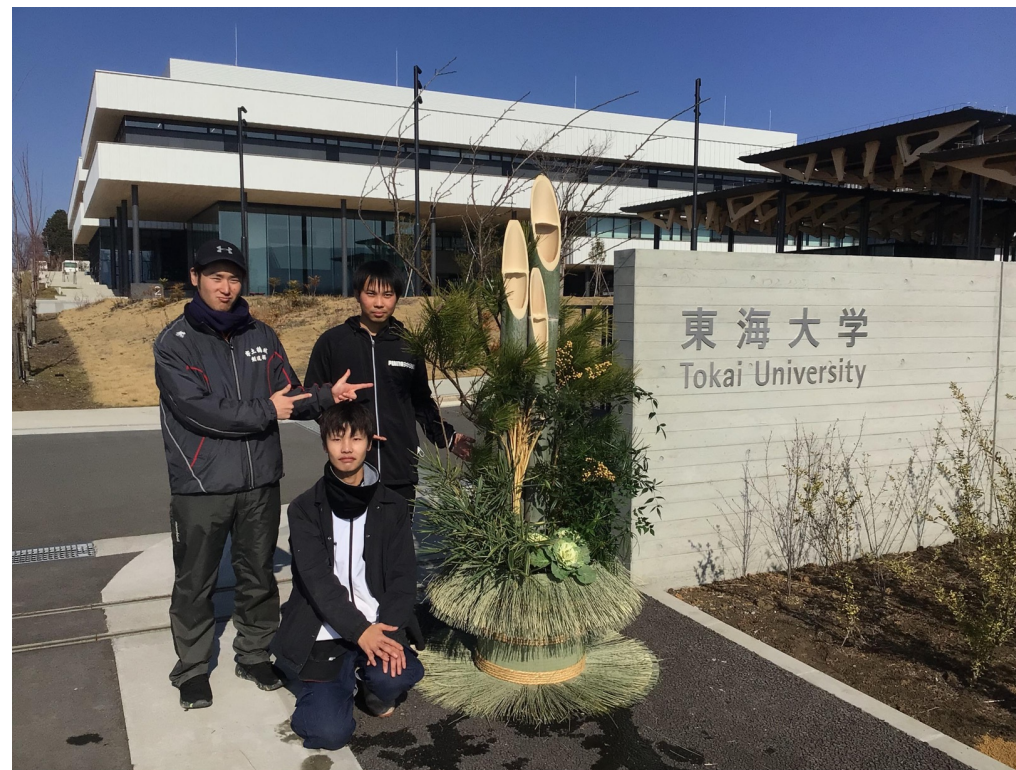
花の寄せ植
え実習体験



活動の評価

2023年度の成果は？

参加学生に実習後, Formsでアンケートを実施
(96名回答)



アグラップで作った門松(2023.12.28)

プログラムの内容は満足しましたか？

()内は昨年度

非常に満足	97 (80)%	100%
まずまず満足	3 (18)%	
どちらともいえない	0 (1)%	
やや物足りない	0 (1)%	
非常に物足りない	0 (0)%	

満足度は著しく高く、昨年度を大きく上回る

学生の要望に沿った内容になっている

プログラムの内容は**理解**できましたか？

()内は昨年度

大変良く理解できた	71 (65)%	100%
良く理解できた	24 (32)%	
理解できた	5 (2)%	
あまり理解できなかった	0 (1)%	
理解できなかった	0 (0)%	

「大変良く理解できた」が増加

技術・知識の獲得に大いに役立ったことが明らか

技術を身につけられましたか？

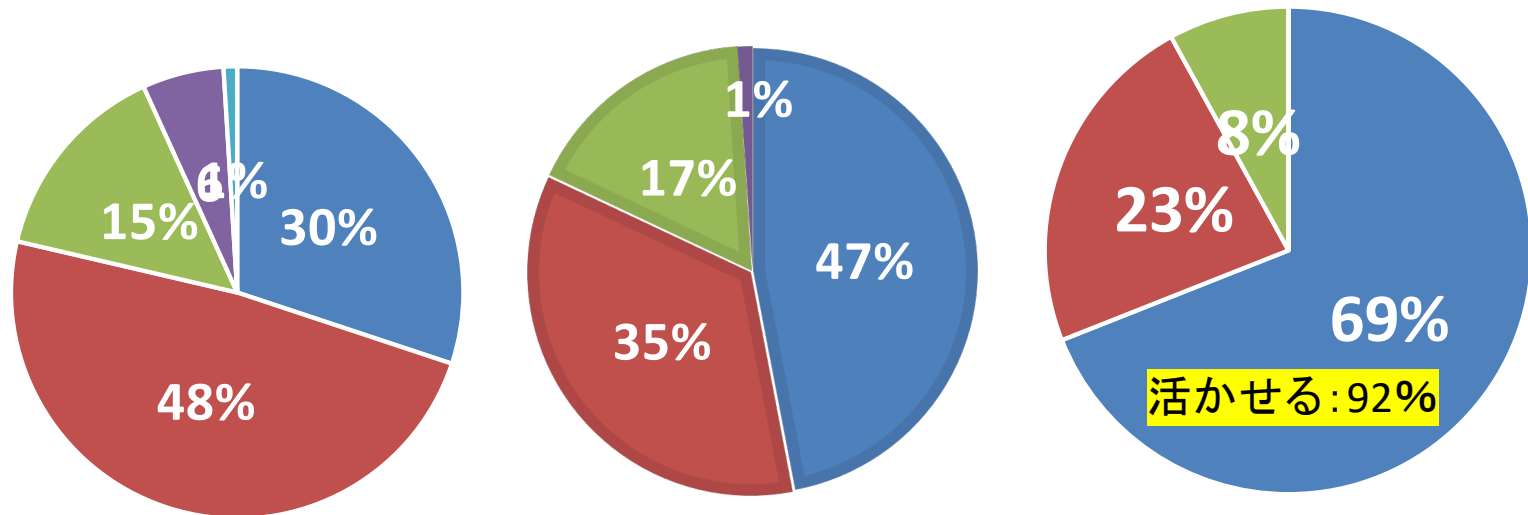
()内は昨年度

かなり身についた	68 (48)%	98%
まずまず身についた	30 (41)%	
どちらともいえない	1 (11)%	
さほど身につかなかった	1 (0)%	
全く身につかなかった	0 (0)%	

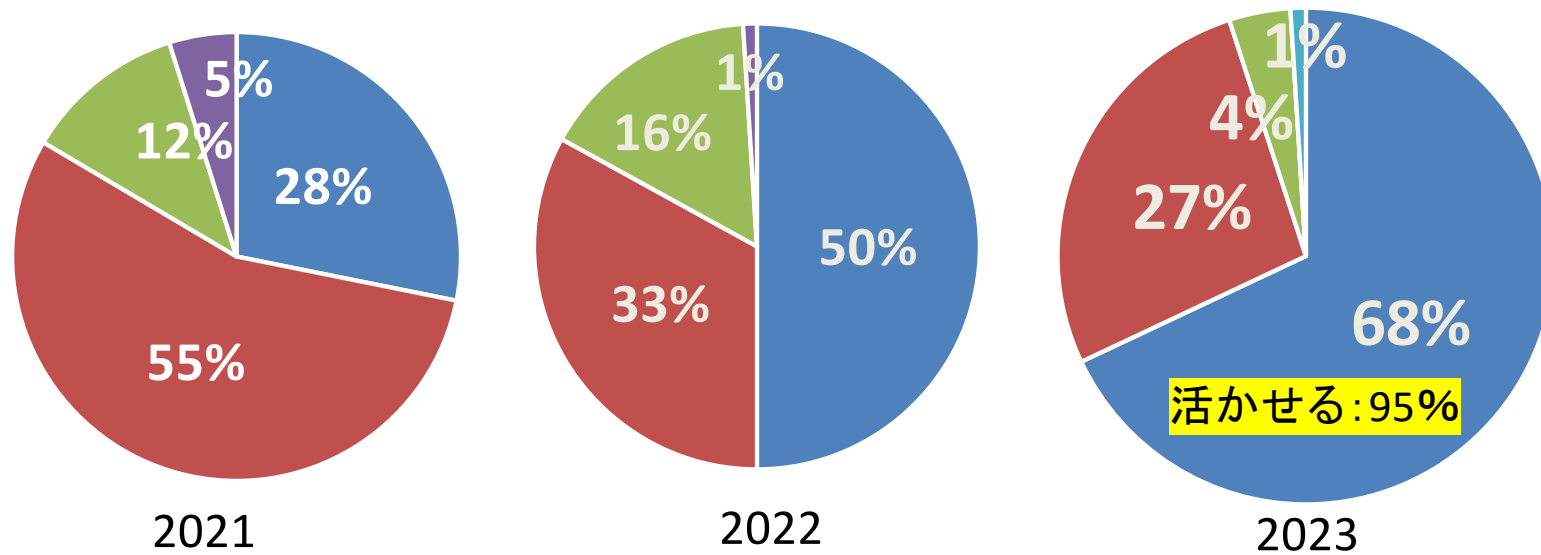
「かなり見つけた」が顕著に増加
的確な技術指導がなされている

アグリップで得た知識や技術を今後活かそうか？

授業や
研究室
活動で

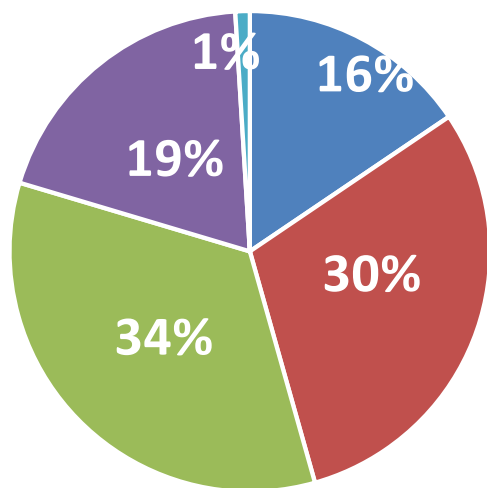


学生
生活で

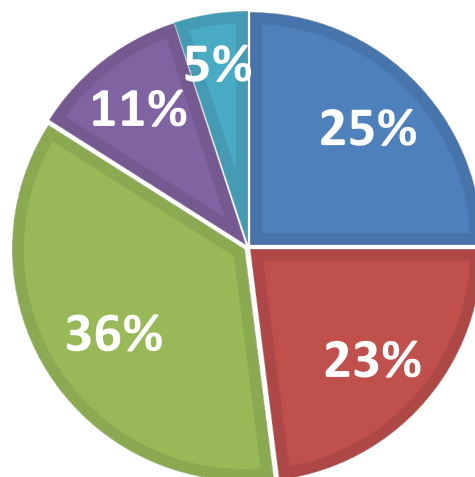


- かなり活かそう
- 少し活かそう
- どちらともいえない
- あまり活かさない
- 全く活かさない

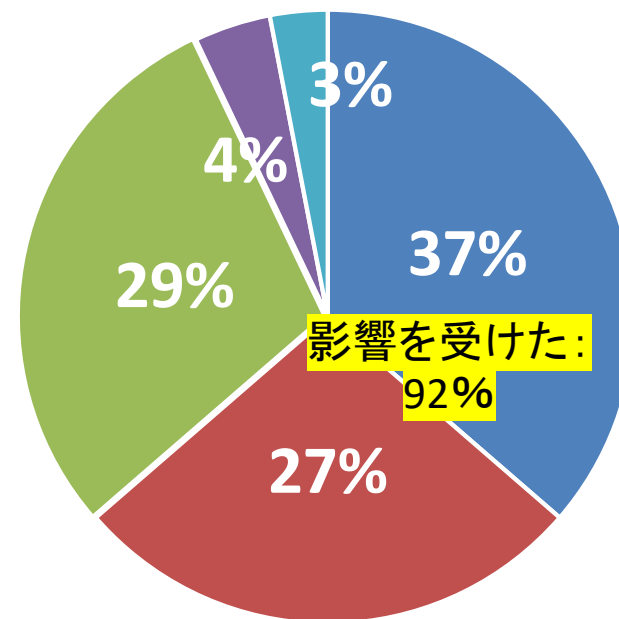
活動が卒業後の進路を考えることに影響を与えましたか？



2021



2022



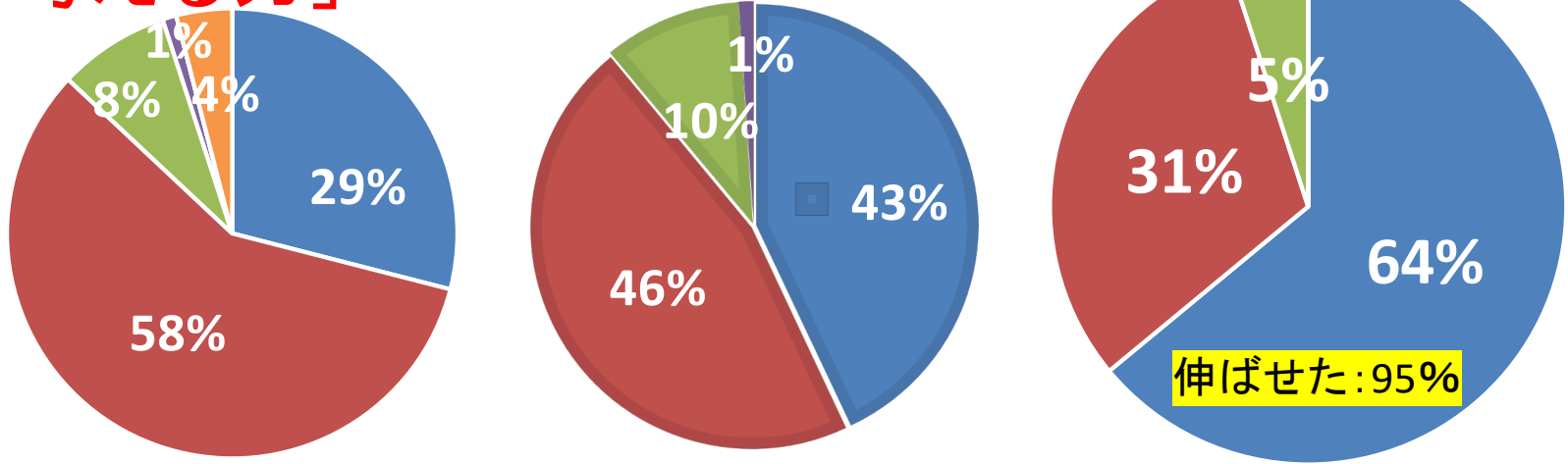
2023

- かなり影響を受けた
- 少し影響を受けた
- どちらともいえない
- あまり影響を受けなかった
- 全く影響を受けなかった

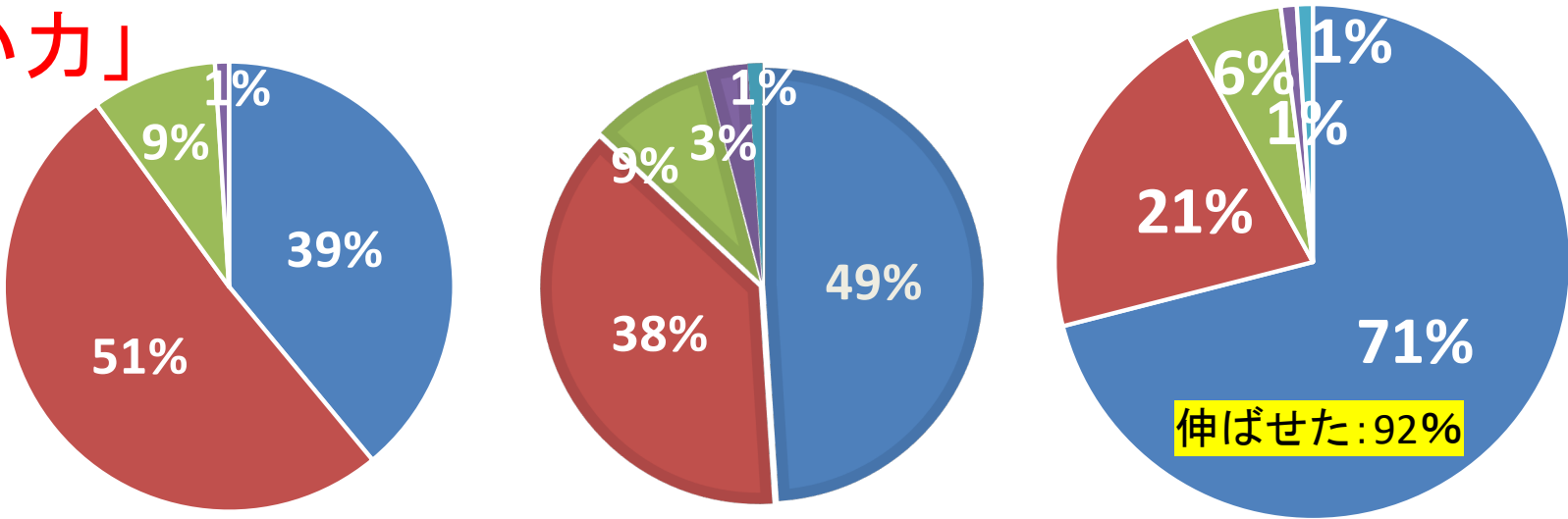
- ・ 阿蘇の放牧の方式も取り入れられたらと考えた.
- ・ 農業への興味がさらに深まった.
- ・ 将来の選択肢が広がった.
- ・ 農機具系の会社への就職も考えた.
- ・ 米の栽培や加工をやってみたいと思った.
- ・ 食品加工や衛生管理に興味を持った.

4つの力は育まれたか？

「自ら考える力」



「集い力」



2021

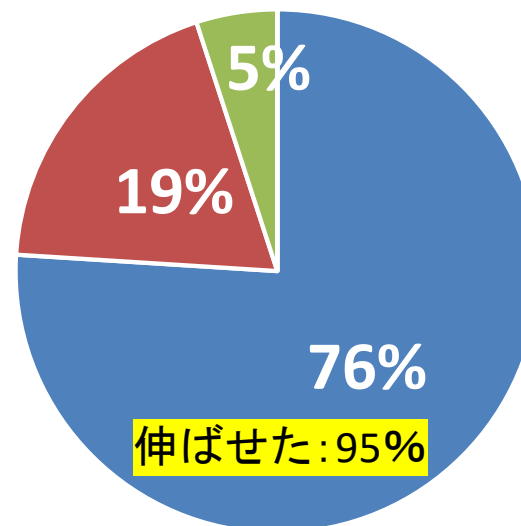
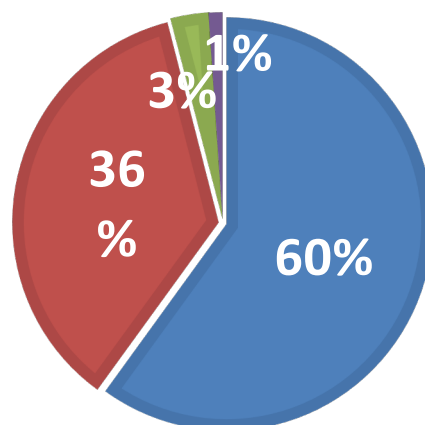
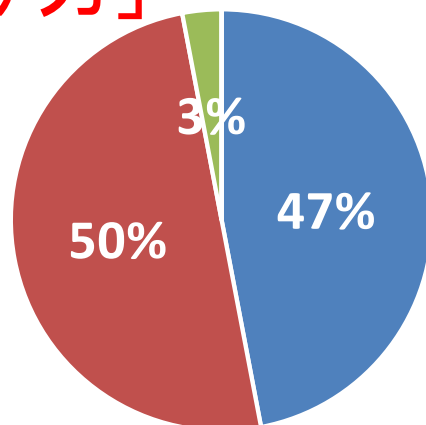
2022

2023

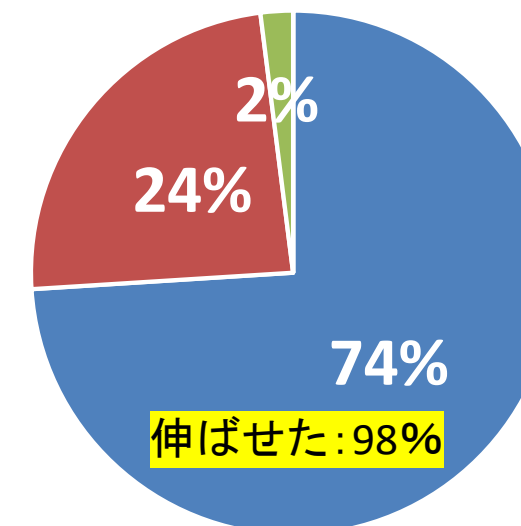
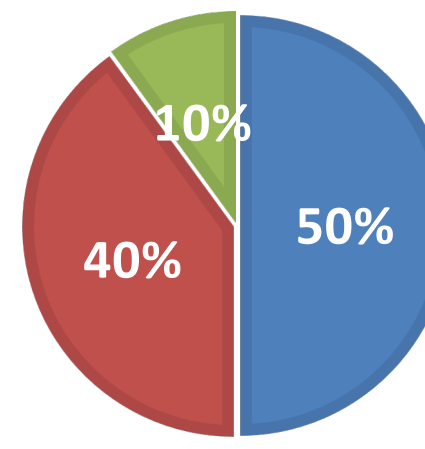
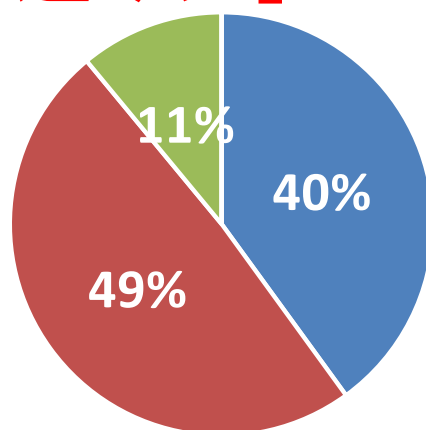
- かなり伸ばせた
- まずまず伸ばせた
- どちらともいえない
- さほど伸ばせなかった
- 全く伸ばせなかった

4つの力のは育まれたか？

「挑み力」



「成し遂げ力」

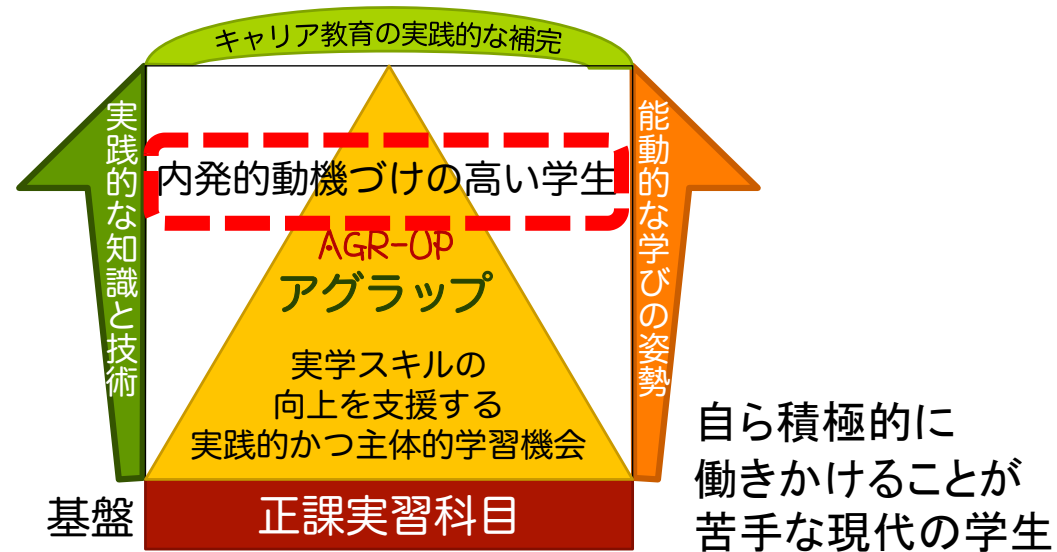


2021

2022

2023

- かなり伸ばせた
- まずまず伸ばせた
- どちらともいえない
- さほど伸ばせなかった
- 全く伸ばせなかった



- ✓ 多角的視点と実学スキルの向上
- ✓ 自発的学習機会の拡大
- ✓ キャリア教育的機能（日本農業技術検定など）
- ✓ 技術職員のFD・SD

学生が自発的・能動的に協力し合い取り組む
“4つの力”の醸成の場

➤ アグラップの活動はメディアやSNS・大学ホームページ等に掲載

2022年10月27日西日本新聞



東海大学 農学部



東海大学 農学部

伊藤 正規さんの投稿

2022年6月23日

阿蘇実習フィールドにて生涯学習講座「チーズを知ってチーズを作る」を開講しました。

座学と実技が一緒に楽しめることが特徴で、多くの方にお申し込みを頂きました。

今回は東海大学農学部食生命科学科の木下先生による「乳酸菌を利用した発酵乳について」のテーマで講演があり、乳酸菌とは何か？乳酸菌を利用した食品やその効果など幅広く、そこが知りたかった！と聞... もっと見る



他3件

日本新聞 (第3報新報地誌部)

ヒマワリ畑を育に記念撮影する東海大の「福幸プロジェクト」メンバーたち＝10月1日、熊本県益城町

九州キャンパス教育活性化プロジェクト アグリ実学スキルアップ支援プログラム
農ある仲間、土ほぐす福幸プロジェクト
～みんなで創る学びのフィールド～

被災の記憶 ヒマワリに

熊本地震

東海大移転先で「福幸」計画

2016年の熊本地震で農学部生3人が亡くなった東海大は、旧阿蘇キャンパス（熊本県益城町）に代わる新たな拠点（阿蘇くまもと県政校舎）を来春、同県益城町に開設する。被災があつた旧阿蘇村へ通う機会が減れば記憶の風化も懸念されることから、学生と教職員らは新校舎の敷地にヒマワリを育てるプロジェクトに取り組んだ。「あなたを幸にす」との花言葉に、「3人を忘れない」との思いを込めて。（小笠原麻結）

10月上旬、青空の下に黄色い大輪が咲いていた。お気に入りの一本を見つけてきて、それを待って撮影する。同大農学部技術職員の中野祐志さん（44）は、学生15人ほどと記念撮影に収まった。

農学部の拠点だった旧阿蘇キャンパスは熊本地震のたゞと振り返る。

10月上旬、青空の下に黄色い大輪が咲いていた。お気に入りの一本を見つけてきて、それを待って撮影する。同大農学部技術職員の中野祐志さん（44）は、学生15人ほどと記念撮影に収まった。

農学部の拠点だった旧阿蘇キャンパスは熊本地震のたゞと振り返る。

地震後も旧阿蘇キャンパスは実習で使用され、学生約800人が暮らした。近くの「学生村」では、アパートが倒壊、当時18、21歳の3人が亡くなった。中野さんは不幸を知った当時を「悔いの極み」といふ。熊本の大部分は新校舎に移るため、今後、学生が村を訪ねる機会が減っていく。震災から時間が過ぎ、あの日を製品化されたヒマワリの油。パッケージ中央の3粒の理は被災して亡くなった3人の学生をイメージしている（東海大提供）

プロジェクトに参加する学生たちと談笑する中野祐志さん（右）＝10月1日、熊本県益城町（撮影・小笠原麻結）

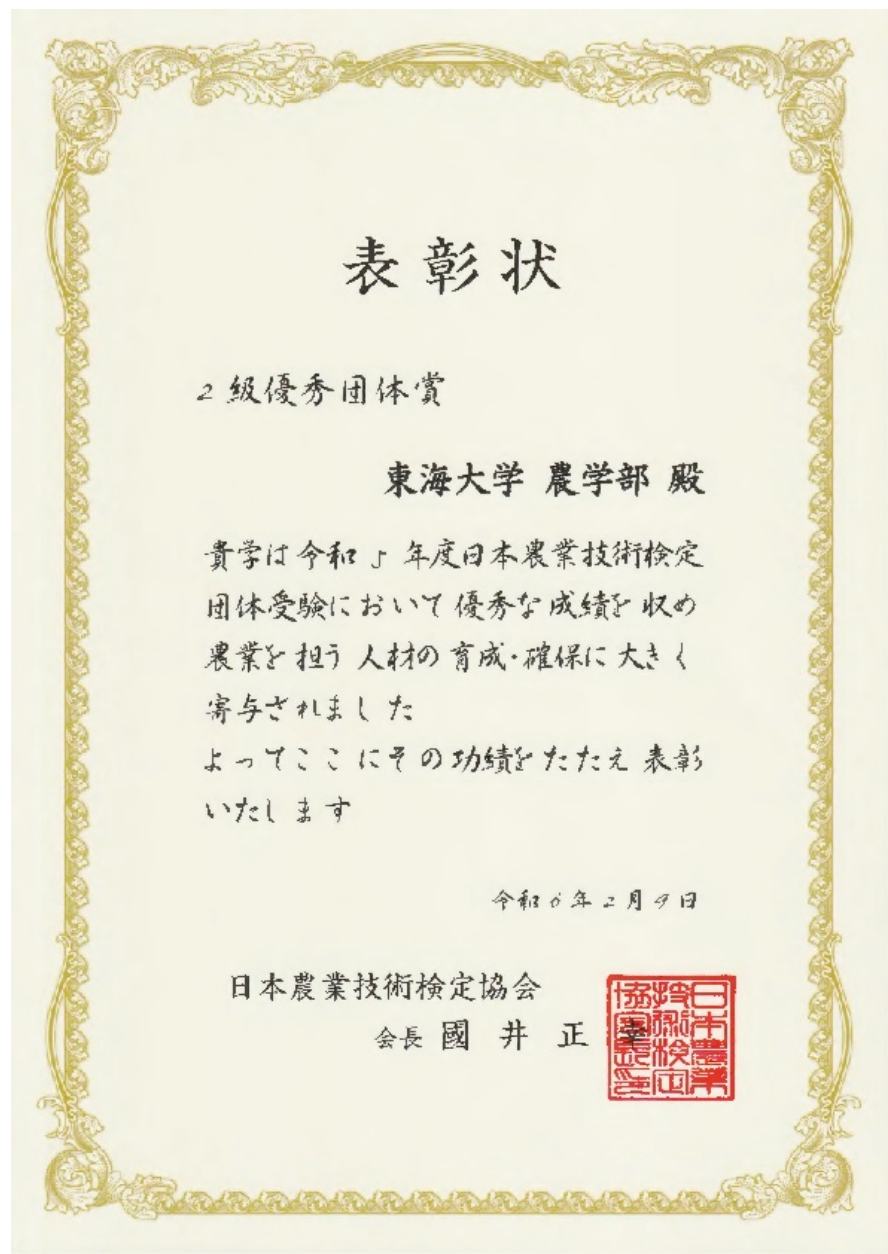
新校舎の開設まで半年を切り、プロジェクトは今年度で幕を閉じる。中野さんは「新校舎に移っても、旧阿蘇キャンパスで何があったのかを語り、次の世代に伝えてほしい」と学生たちにエールを送った。

プロジェクトに携わった農学部7年の西山真音さん（20）は、地震で大学がどんな被害に遭ったのかを知る事ができた。プロジェクトを通じて他の学生や地域の方と交流できてよかったと話す。食用油は熊本キャンパスの食堂に置き、活動内容や箱のデザインの意味をパネルで紹介して活動した地域住民にも配布予定という。

知る学生もほとんどいなくなり、記憶の継承も課題となっていた。

20年4月、地域住民と協力する課外活動として「福幸プロジェクト」が始まった。新校舎の敷地にあり、旧阿蘇村へ通う機会が減れば記憶の風化も懸念されることから、学生と教職員らは新校舎の敷地にヒマワリを育てるプロジェクトに取り組んだ。「あなたを幸にす」との花言葉に、「3人を忘れない」との思いを込めて。（小笠原麻結）

日本農業技術検定 2023年度2級優秀団体賞



農技検 日本農業技術検定 概要

第1回

2024年7月6日(土)

3級 10:00~10:40 (40分)

2級 11:10~12:10 (60分)

応募期間

第1回 4月25日(木)~ 5月31日(金)

第2回 9月30日(月)~10月31日(木)

試験会場

一般受験は東京・大阪等各地の指定会場

団体受験は試験実施団体の準備・提供した会場

第2回

2024年12月7日(土)

3級 10:00~10:40 (40分)

2級 11:10~12:10 (60分)

1級 13:00~14:30 (90分)

受験料 (税込)

	一般受験	団体受験	団体受験 (学生割引)
3級	3,140円	2,620円	1,570円
2級	4,190円	3,350円	2,090円
1級	5,240円	4,190円	2,620円

※複数級受験割引=学科の「3級と2級」又は「2級と1級」を同一検定日に受験の場合、受験料を1,000円割引。

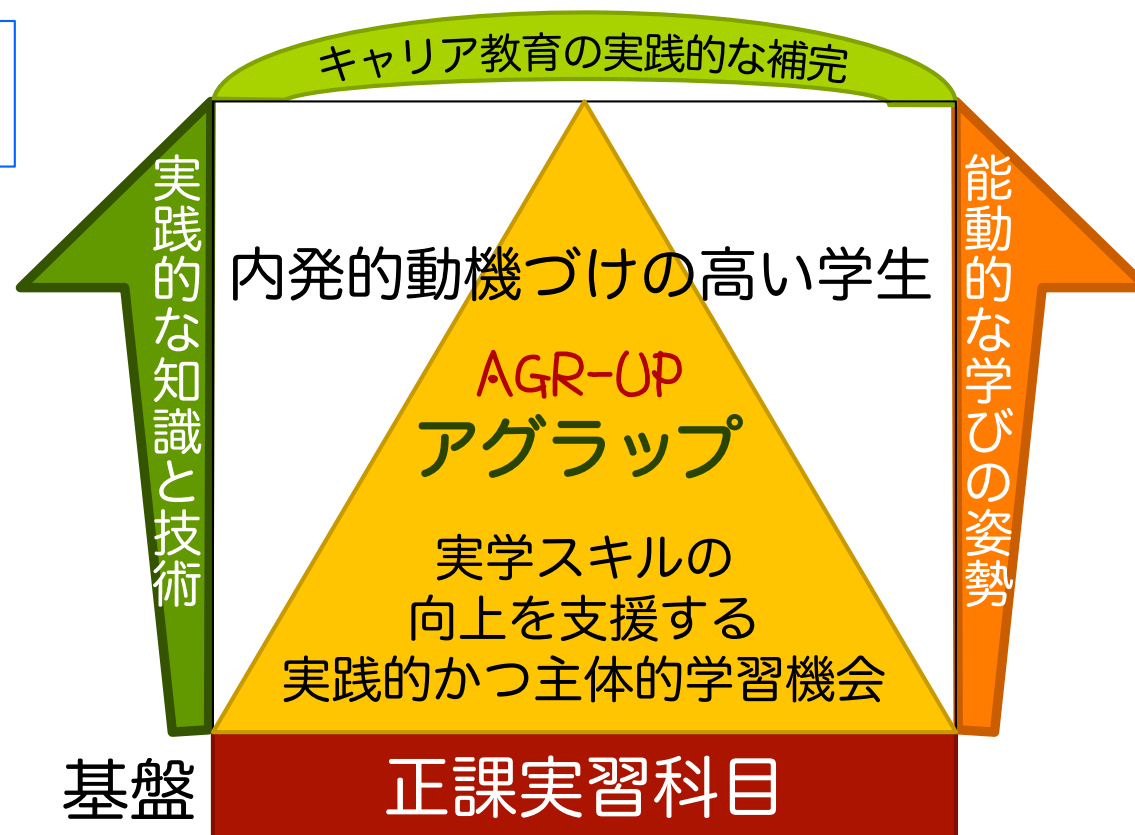
[2023年度優秀表彰団体] ※農業高等学校の部を除く

[3級] JAの部 / 最優秀団体: JAみなみ信州、優秀団体: JA富士伊豆、JA福岡市、JAあいら

[2級] 農業大学校等の部 / 最優秀団体: アグリイノベーション大学校関東校、優秀団体: 山形県立農林大学校、埼玉県農業大学校、専門学校山梨県立農林大学校、新潟県農業大学校、アグリイノベーション大学校関西校、兵庫県立農業大学校、合同会社近代農業研究会
大学の部 / 最優秀団体: 鳥取大学農学部、優秀団体: 日本大学生物資源科学部、龍谷大学農学部、佐賀大学農学部、東海大学農学部、南九州大学環境園芸学部
JAの部 / 最優秀団体: JA香川県

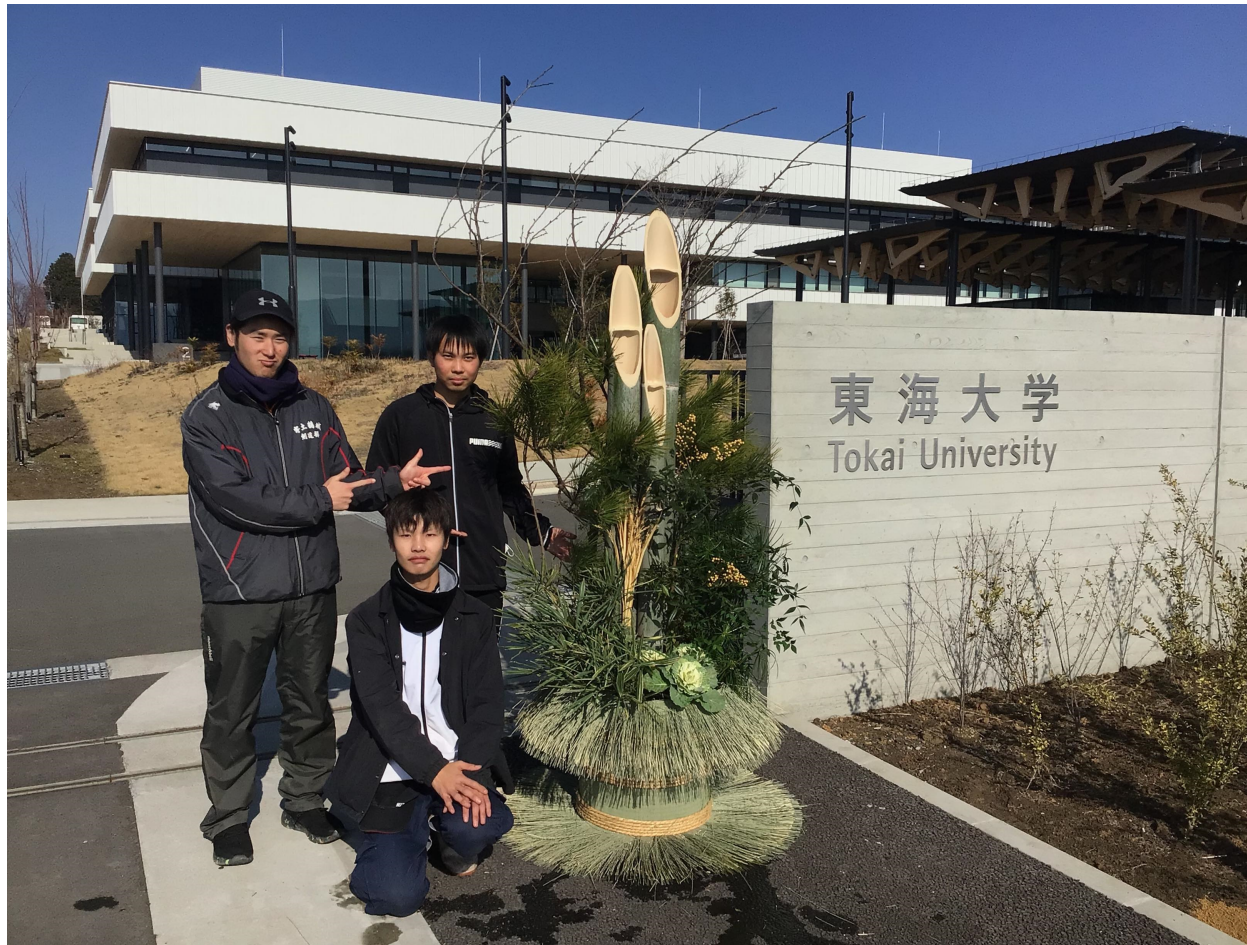
Webサイトとパンフレット等に掲載

まとめ



- ✓ 実学スキル向上と自発的学習機会の拡大
- ✓ 学生が自発的・能動的に協力し合い取り組むことで4つの力を育む
- ✓ キャリア教育的機能（資格取得へのアドバンテージ：日本農業技術検定）
- ✓ 学部学科を超えた学生間交流の場

アグラップで 主体性を育み、確かな技術を身につけよう！



アグラップで作った門松